

図書だより

No.4 10月発行



暑い夏が終わり、涼しい季節となりました。さて、秋といえば・・・「読書の秋」。図書室で秋に読みたい本を探してみませんか？食べ物、スポーツ、芸術の秋・・・いろいろな秋が思い浮かびます。図書室には、様々なものを題材にした小説や、雑誌など豊富に取り揃えています。テーマを決めて本を探してみるのも、たくさんの発見があって面白いものです。

読書の秋



読書の秋とは、中国・唐時代の文人である韓愈(かんゆ)が残した詩の中に、「燈下親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ちよく感じられ、あかり(燈下)になじむようになる」。秋は読書に一番適した季節であるということを表現したことが由来となっています。

私の感想文 (読んで感想を共有しませんか?)



星の子/今村夏子 (朝日新聞出版社)

10月に映画化されるこの小説。ぜひ、秋の夜長に読んでほしい一冊です。この本を読んで思ったことは、私は大切な人が信じていることを信じ切ることは難しいかもしれないけど、向き合うことが大切だな、寄り添うことが大切だなと感じました。両親の信じるものを信じようとした主人公の心の成長を、そして、娘の成長を感じた両親の心の動きを感じながら読んでみてください。

もしものせかい/ヨシタケシンスケ

(赤ちゃんとママ社)

みなさんの心の中にある、「もしもこうしていたら・・・」というもしものせかい。今あなたが生きている世界も、もしもの世界もあなたにとって大切な世界です。「もしも・・・」の気持ちで溢れかえったら、この、絵本を何度も読み返してください。心がスッと軽くなります。そして、とても奥深いです。



もしもなにかをなくしたら。
もしももどってこないなら。

何度も読み返してほしい
ヨシタケシンスケが描く新しいものがたり



愛を知らない/一木けい (ポプラ社)

読み終わった後に、愛って何だろうと考えました。「愛されたい」誰もが持つ感情です。しかし、気持ちは一方通行。私はこんなにも愛しているのに…。愛を知らないが故の苦悩、そして愛を知った後の心の変化。周囲の人の理解と信頼の大切さ。重たいテーマでしたが、青春ストーリーも合わさり、読みやすく、考えさせられる一冊です。

一図書室よりお知らせ



新しい本が入った場合は、学校HPや図書だよりでお知らせします。たくさんの新しい本がみなさんに手に取ってもらうことを待っています。貸出方法は、クラスと名前を伝えるだけと簡単です。貸出期間は2週間ですが、報告があれば延長も可能です。みなさんの来館をお待ちしています！また、こんな本が読みたい！こんな図書室があればなあ！など、リクエストも受け付けます。この本が面白かったなどの感想も聞かせてもらえればうれしいです。